

横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会会議録

- 1 日 時 平成 26年 9月 19 日 (金) 14時 30分～ 16 時 00分  
 2 場 所 横浜市文化観光局局会議室  
 3 出席者 石田一志委員、中村晃也委員、丸山宏委員  
 4 欠席者 田中操委員、宮本とも子委員  
 5 傍聴者 なし  
 6 議事内容

議題	1 定足数の確認、委員会の公開・非公開の決定、委員長の選出 2 第Ⅱ期3か年計画について 3 平成25年度評価について
委員意見等	1 定足数の確認 委員数5名のうち3名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 2 委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。 3 第Ⅱ期3か年計画について 第Ⅱ期3か年計画の策定について、事務局から策定方法、スケジュールについて説明した。 〈質疑〉 (委員) ・策定方法は、第Ⅰ期を継承する部分はあるのか。 (事務局) ・大幅な修正はない。芸術アクション事業などについて、時点修正はある。 4 平成25年度評価について 〈質疑〉 (指定管理者へのヒアリング) (委員) ・海外招聘事業が大幅な赤字になってしまったということだが、パーヴォ・ヤルヴィのパリ管弦楽団の公演は高額チケットが売れ残ったのか。 (指定管理者) ・高額チケットが売れ残った。同時期に近隣でベルリンフィル、ウィーンフィルなどの公演が重なり影響を受けたと考えている。 (委員) ・他館の予約や計画はいつごろわかるのか。 ・すばらしい音楽会のために、他の公演の経費を削ってでもお金を回しておいて、チケットを安くするなど、事業の相互関係は組み立てられないのか。 (指定管理者) ・我々の計画も早く、他館の情報が入った時にはどうしようもなかった。また、横浜音祭りのタイミングとの兼ね合いもあり同じ時期になった。 ・団体割引などを試みているが、その分収入が落ちてきている。 (委員) ・みなとみらいホールの代表的な事業はと問われたときにどう答えるか。

(指定管理者)

- ・ホールのブランド力は、施設やスタッフの対応などトータルのものだと考える。特徴的な事業をやるといふことも大事な要素にはなってくると思う。

(委員)

- ・みなとみらいホールは、海外の人が多く集まったり、いろいろな文化施設もある特殊な地域環境に位置する。サービスなど総合的に取り組むことは当たり前のことであるが、それに加えて特殊な事業を聞いても毎回明確な答えが出てこない。
- ・みなとみらいホール独自の強力な継続事業で顧客を育てていけば、販売不振は防げたかもしれない。今後そのような企画が必要ではないか。

(指定管理者)

- ・財団の中期計画として重視しているアジアとの国際交流や子ども事業に現在注力しており、今後も継続的に取り組んでいく。

(委員)

- ・横浜美術館等の専門施設との連携事業はどうであったか。

(指定管理者)

- ・今年度はさらに広げて、マリントワーなどでもコンサートを開催する。市内施設との連携は重視している。

(委員)

- ・高齢者向けの継続的な事業を行ってもよいのではないか。

(指定管理者)

- ・高齢者が来館しやすいランチタイムのコンサートを行っている。昨年度は本格的なオーケストラのコンサートも行った。今後も継続して行っていく。

(委員)

- ・「新たな音楽分野を提案する、優れた創造・創作の拠点」の事業の入場者数はどのくらいだったか。

(指定管理者)

- ・Just Composedという新曲を委嘱した公演は若干目標に届かなかったものの、オペラシリーズの公演は好評で公演数を増やしたこともあり大幅に目標を越えた。

(委員)

- ・大規模の工事などは行うのか。

(指定管理者)

- ・大規模なものは市と協議して決めて行く。今年度は2月に2週間の休館があり、その間いくつかの工事を行う。

(委員)

- ・長期の休館がある場合、事業の見直しを行うよい機会でもある。

(委員)

- ・ピアノの買い替えなどはあるか。

(指定管理者)

- ・コンサート用グランドピアノを25年度末に更新を行った。他に5台のピアノがあり、順にメンテナンスを行いながら使用している。

(委員)

- ・継続して行っている事業はどのようなものがあるか。

(指定管理者)

- ・開館から継続しており、月に1回くらい開催しているものとして、みなとみらいクラシック・クルーズがある。昼の時間帯と午後の時間帯で1日に2回公演を行っている。通算では100回以上になる。

また、オルガン1ドル・コンサートという昼に実施している100円で観れるオルガンのコンサートがある。

(委員)

- ・そのような公演を上手くアピールしていくのがよい。広報として自分たちのよいところを見せて行く必要がある。

(委員)

- ・新しい映像手法を取り入れたコンサートとはどのようなものか。

(指定管理者)

- ・ゴジラの映像でプロジェクションマッピングを行った。音楽に合わせてストーリー的な映像をつくった。

(委員)

- ・プロジェクションマッピングも1つの方法として売りになるかもしれない。

- ・全体的な事業でいえば、もう少し事業の整理が必要だと考える。その中から将来の基幹になる事業が見えてくるのではないか。

- ・みなとみらいホールは周りの施設や、海外の要人が来るなど非常に恵まれた環境にある。今後4年目に入っていきにあたり、新たに計画を考えて行くことに期待する。

議事は以上